

12日目 中津川-11.3Km-大井-12.3Km-大湫

6月27日、馬籠を午前7時発のバスに乗り7時半に中津川駅着、天候は曇り。中津川市の中山道を歩き始める。

中津川宿 45番目

中津川は新宿と高速バスで繋がっており、中津川駅には何度も来ているが、本日は中山道なので初めての街となる。最初に目についたのが、「すや」で江戸時代から栗きんとんで名高いお菓子屋、早朝で開いていないのは残念。桂小五郎隠れ家の矢印があり、その矢印に従って細い路地をたどると「見越しの松」の粋な旧家、料亭「やけ山」の跡で、そこに桂小五郎が隠れていた。



栗きんとんの「すや」



桂小五郎の隠れ家の料亭の跡



往来庭

本陣や脇本陣は残っていないが、長い宿場には立派な旧家が沢山残っていて、その殆どが現役の商店か住居。また、「往来庭」なる江戸時代の横丁を再現した休憩所が作られており、旅人には有難いが早朝のこととて横丁の中の店は全てクローズ。商店の前の掃除をしている人も多く、「お早うございます」と声をかけて通り過ぎる。四ツ目川にかかる橋から見ると、川の上流も下流も雲で見通し悪く、見えるはずの恵那山も見えない。



庄屋



酒屋

双頭一身道祖神

高札場を過ぎると小高い山となっており、「こでの木坂」としてかつては急峻な坂であり、一里塚もある。そこに設楽牧童句碑があり、牧童とは聞いたことない俳号なのでネットで調べたら芭蕉の門人だった。

その近くにあるのが「双頭一身道祖神」で市の指定文化財になっている。中山道は道祖神が多いが、双頭一身は初めてお目にかかる。



春の雨
水車まで
牧童
箕をかむり行く

双頭一身道祖神



嵐讃岐と六地藏石幢、しめ飾り

中津川市指定文化財 有形文化財（建造物）
嵐讃岐の供養碑

所在地 中津川市千旦林42-1
 指定年月日 平成14年4月24日

嵐讃岐は木曾家の有力武将の一人で、千旦林に居をかまえ、千旦林八幡宮（八幡神社）の再建につくした人と伝えられている。この供養碑は、寛永3年（1626）に嵐讃岐を供養するために建てられたもので、墓石様式の変遷をあらわすものとして貴重であり、岐阜県下でも希な様式である。

中津川市教育委員会

中山道は市街地から郊外となり、畑や田んぼの中となる。本日初めてのコンビニを見つけ、トイレ休憩。そのコンビニの駐車場に石積みの碑があり、嵐讃岐の供養碑と書かれている。

六地藏石幢



嵐讃岐とは時代小説の主人公名に使えるような格好いい名前なのでネットで調べたが説明板以上の内容は見つからなかった。その先にあったのが六地藏、今迄見た六地藏は六体の地藏か、1枚の石に六体の地藏を浮き彫りにしているものだったが、ここは六体の地藏の石灯籠の形となっていて非常に珍しい。因みに、この形は石幢(せきどう)と言う。

この付近の民家に、正月のしめ飾りを玄関に飾っている家が多く、良く見ると何か書かれており、子孫繁栄と魔除けらしい。

次の大井宿との間の中間にある坂本立場に到着、旧家も何軒か、「尾州白木改番所跡」があり、尾張藩は木曾檜等の木材の抜荷や量目の監視に厳しく、このあとも尾州白木改番所は何箇所も見かけた。

民家のしめ飾り





道路標識に恵那市と書かれており、中津川市から恵那市となつて、甚平坂を越えると大井宿。江戸時代の甚平坂は狭く急峻だったが、明治になつて明治天皇の馬車を通す為に広い緩やかな道となつたそう。

まず高札場があり、宿場町の雰囲気を持つ家並と続いている。立派な本陣の門が残っており、その横に和宮泉(かずのみやせん)の標識があつて、その標識をたどると井戸がある。この井戸水は飲料として良質であるとのことで、和宮が気に入り、何杯も汲んで泊まっている中津川宿まで運んだ。



和宮泉は道路から草むらを分け入ったところにあつて、蜘蛛の巣がかかっていたので、少なくとも本日は誰も来ていない雰囲気、井戸そのものは蓋をされているのでどうと言うことはないが、その井戸に降りる石段の苔むした緑がよかった。

のれんとライオン

庄屋や役人宅、旅籠など旧家が続く街中を歩いていると、のれんをかけている家が多く、調べるとのれんコンテストを実行しているとのこと。こんなコンテストは見ていて楽しい。写真の「えなはえーなも」は恵那は良いところの意味か？



街角の家の前にライオン像があり、由来も書いてあつて現代の仏師の作とのこと、どうみてもライオンではなく人の顔に見える。



福崎日精の作ったライオン像
大井タムシの犠牲者供養のため、白衣観音(恵那かんぼ下)を作るために来られた佛師の作である。この家(小沢宅)に宿泊して製作された。

宿場の中程にある大井橋の欄干には中山道 69 次の浮世絵が飾られていて楽しい。

西行硯水と西行塚

市街地が終わるところに西行硯の湧水があり、西行はこの水で墨を摺ったとのこと、今は雑草で水面は見えない。歌碑もあるが、複数の石の表面が摩耗していてどれが歌碑かわからない、「道の辺に 清水流るる 柳かげ しばしとてこそ 立ち留りつれ 西行」。

西行硯水



十三峠への登り口にあるのが西行塚。西行を供養する為に作られた塚があり、その上に五輪塔がある。付近には西行の歌碑と芭蕉の句碑がある。

西行塚碑



五輪塔



待たれつる 入相のかねの
音す也 あすもやあらば
きかむとす覧 西行

西行の わらじも
かかれ 松の露
芭蕉



十三峠

大きなキノコ



右の地蔵には首があるのに左には無い



13 の峠や坂があるのでその名のついた十三峠、アップダウンを繰り返しながら山の中へと分け行っていく。落ち葉の中に、傘の直径 20cm 程の大きなキノコを見つける、まず食べられないキノコだろうな。地図に「姫御殿跡」とあり、何となく「姫」の文字に期待していたら、石碑と説明板があるのみ、「この近くに松の大木があり松かさ(松の子)が多くついたので子持松といい、その子持松越しに馬籠(孫目)が見えるので、子と孫が続いて縁起が良い場所といわれ、姫様の通行の時にはここに仮御殿を建てて休憩できるようにした。



和宮降嫁の時には檜の柱と白綾の畳の御殿を立てて休憩した。雲が低く垂れ込め、木立の中で展望は悪く、馬籠も何も見えない。その次のいわくありそうな名前は首なし地蔵、「昔、二人の中間がここで眠ってしまい、一人が目覚めると、もう一人は首を切られて死んでいた。びっくりして辺りを見回したが誰もいない。怒った中間は「黙ってみているとは何事だ」と地蔵の首を切り落としてしまった。以来、この地蔵は首なし地蔵と呼ばれるようになったという。

カモシカの親子



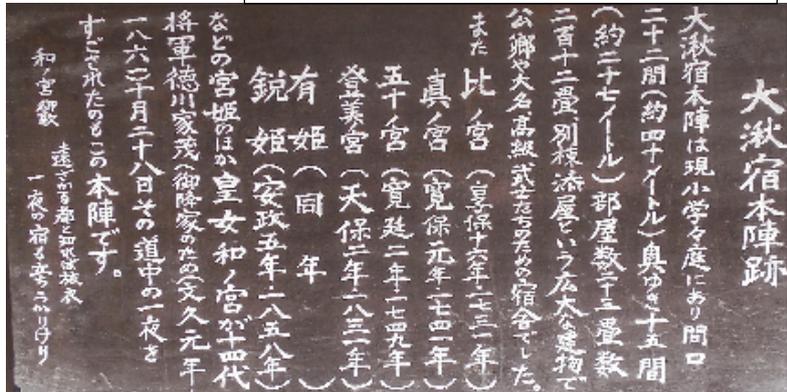
先行して歩いてきた二人組が立ち止まって横手を見ている、その視線の先を見ると草むらの中にカモシカの親子がいた、距離は 2,3 百 m、カメラを向けても動かない、野生のカモシカを見るのは初めて。 その二人連れは夫婦で地元の人、中山道をよく歩いているとのこと、この先には店も食堂も何もないと聞き、屋根付きの休憩所で一緒に昼食。

夫婦はおにぎり、私は非常食のカロリーメイトとウィーダーインゼリー&チョコバー。

十三峠越えを再開、すぐ近くで人声がしたので、良く見るとゴルフカートにのったゴルファー達、中山道に沿ってゴルフ場があり、山道の両側にもゴルフボールが何個も落ちていた。 こんなのが飛んできてぶつかったら痛いだろうな。 アップダウンの繰り返しのウンザリし、ガイドブックで数えると、西行坂・乱れ坂・お維原坂・・・・・・・・しゃれこ坂・山の神坂・芋坂まで、坂と峠は 13 どころではなく 21 もあった。 地名の曰く・因縁も最初は読んで写真に撮っていたが、その内あきてしまった。

遠ざかる 都と知れば 旅衣
一夜の宿も 立ちうかりけり 和宮

大湫(おおくて)宿 47 番目
3 時前に大湫宿に到着、端から端まで 100m 程の狭い宿場で、本陣跡は広場となっており説明板がある。また広場には 3 体の陶製の和宮の人形があるがいずれも現代りもの。



和宮の陶製人形



脇本陣は残っていて見学できるようになっていたが、本日は生憎の休館日だった。

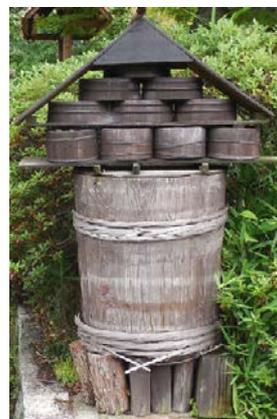


旧家は何軒か残っているが、中でも目を引いたのは、三つの大きい綺麗な虫籠窓(むしこまど)のある旧家で、また映画のセットのような古い、可愛い防火用水もあった。

綺麗な虫籠窓の旧家



映画のセットのような防火用水



神明神社の巨樹



宿場のはずれに神明神社があり、そこの大杉は巨樹で樹齢 1300 年、樹高は 60m だったが落雷で 47m となり幹周は 11m。屋久島の縄文杉は樹齢 4000 年以上、樹高は 30m、幹周は 16.1m なので、神明杉の樹高は縄文杉より高い。



どこかでもまた会えたら良いですね、と名乗らずに別れた夫婦有難うございました

道連れとなった夫婦の話によると、大湫宿は、土日はバスが無く、電話でタクシーを呼べば千円程度で JR 釜戸駅まで行くが、次の細久手宿にはタクシーが来てくれるかどうか分からないとのこと。大湫から細久手まで 6.9Km、本日は細久手まで歩くつもりだったが、大湫でやめ、その夫婦の友人のマイカーで JR 釜戸駅まで乗せて頂いた。JR 釜戸駅から、名古屋に行き、近鉄で奈良に帰る。歩数計を忘れた為、歩数は不明。

マンホールの蓋

中津川は、モノクロとカラーの「おいでん祭りとサラサドウダン」、もう一つのカラーは「中央に恵那山、周囲には市の花サラサドウダン」。



中津川と大井との間にある坂本は「はなのきとしでこぶし」。大井は歌川広重の浮世絵



恵那市のもう一つのバージョン、合併前の旧恵那市の花ベニドウダンを配したデザイン。



大湫宿は瑞浪市、中央に市の花キョウ、その周りに市の木マツ



12日目

